

まだまだあります。  
日本遺産の構成文化財

日本遺産に認定された文化財の数は、合計で31箇所。弥生時代の鉄器や、古墳時代の塩をつくった遺跡。その他にも、弥生時代の銅鐸、銅劍をはじめ、神話の時代を思わせる渦潮や沼島など。そして、神々を祀り、地元に歴史と文化を伝え続けてきた神社仏閣など、そのどれもが海人の営みに関係するものばかり。淡路島をめぐるなら、1つ1つの文化財に、是非触れてみて。

MAP ひきのいせき  
7 引野遺跡

古墳時代の中頃に、海人が生業とした土器製塩が行われた遺跡です。出土した遺物からは、脚台付きの製塩土器から熱効率の良い丸底式の製塩土器への進化をたどることができます。製塩土器の改良による塩の量産化で王権を支えた塩づくりの始まりが想像できます。

MAP けいのどうたく  
12 慶野銅鐸

日光寺銅鐸と同じ慶野村(現在の南あわじ市松帆慶野)の中の御堂から出土したと伝わります。鉢の外側に装飾のための縁が付いた外縁付鉢(がいんつきちゅう)式銅鐸です。こちらもまた播磨灘を臨む海岸地帯で発見されており、弥生時代の銅鐸祭祀と海の民との関わりを想像させます。

MAP きたんかいきょうとゆら・なるがしま  
19 紀淡海峡と由良・成ヶ島

由良・成ヶ島は、瀬戸内の要衝である紀淡海峡を掌握する拠点として機能しました。天然の良港である由良は海上の交通・交易の場として発展。紀淡海峡を舞台に活躍した海人の姿が想像できます。記紀にある天日槍(あめのひばこ)の「出石の刀子」ゆかりの生石(おいし)神社もこの地にあります。

MAP どうたくしゅつどくなかのみどう  
22 銅鐸出土地 中の御堂

日光寺銅鐸の出土地で、日光寺の仏堂があったと伝えられています。日光寺に伝わる古文書「宝鏡御届写」には、「貞享3(1686)年の出水により、播磨灘を臨む海岸部で8個の銅鐸が出土した」との記述があります。付近で銅劍も出土していることから海の民との関連が考えられています。

MAP きどはらいせきとしゅつどいぶつ  
26 木戸原遺跡と出土遺物

古墳時代中期の遺跡です。一般集落ではほとんど見られない鉄器の素材となる鉄挺(てってい)や韓式系土器が多数出土していることから、朝鮮半島との深い関わりを感じさせます。倭の五王の時代に半島との行き来を担った海人の航海術が想像できる遺跡と遺物です。

MAP しおっぽにしいせき  
2 塩壺西遺跡

弥生時代後期に明石海峡を見下ろす山上に営まれた集落跡です。弥生時代のものとしては全国最大級の鉄製の鎌(やじり)や、狼煙(のろし)を上げた跡などが発見されました。瀬戸内海から畿内に向かう海上航路の要衝である明石海峡を見張った場所ではないかと考えられています。

MAP はただいせきのぼうじょうせきせいひん  
5 畑田遺跡の棒状石製品

淡路島で最も古い弥生時代終り頃の製塩土器が発見された遺跡です。細長い石を磨き上げて両端をとがらせた棒状石製品も出土しており、漁具を自在に操った海人との関係の深さをうかがわせます。遺跡は播磨灘に面した海岸部に位置しており、海との強い関わりを示しています。

MAP あかしかいきょうとまつほのうら  
10 明石海峡と松帆の浦

播磨灘と大阪湾を隔てる明石海峡は、潮流の激しい瀬戸内の難所。一方で畿内に向かう海上交通の要衝でもあり、優れた航海技術を持つ海人が活躍する場となりました。松帆の浦は明石海峡を臨む景勝地であり、この地で塩づくりを営んでいた海人の様子は万葉集中にも詠まれています。

MAP ふたついしえびすのまえいせきおよびしゅつどひん  
13 ニッ石戎ノ前遺跡及び出土品

弥生時代後期に急増する山間地集落の一つです。四国徳島産の辰砂(しんしゃ)を原材料に朱を精製した工房跡や使用した工具類が発見されています。鳴門海峡を渡って原材料を運び、時代のかぎとなる重要物資の生産と流通に携わった海の民の活動が想像できる遺跡です。

MAP なかがわらどうたく  
20 中川原銅鐸

金属器時代の始まりを告げるわが国最古段階の銅鐸、銅劍の中でも最も古い形とされる菱環鉢(りょうかんちゅう)式銅鐸で、横方向に帯を巻いたような横帶(おうたい)文があることから横帶文銅鐸とも呼ばれます。古式銅鐸ばかりが発見される淡路島の銅鐸を象徴しています。

MAP こつろうどうけん  
24 古津路銅劍

多数の銅鐸が発見された慶野松原近くの古津路遺跡から見つかった銅劍で、14本が確認されています。播磨灘を臨む海岸近くに多くの銅鐸とともに埋納。青銅製の美しい銅劍は、弥生時代の青銅器祭祀に海の民が関わったことをその姿で示すかのよう。出土地には石碑が建立されています。

MAP やまとおおくにたまじんじゃ  
27 大和大国魂神社

日本書紀に登場する「御原(みはら)の海人」を統率したとされる大和氏ゆかりの神社で、淡路國二宮と呼ばれています。境内からは大和社印が出土。古代の社殿は西向きで瀬戸内海に面していましたが、海上を通る船人が礼拝をせず祟りをなしたことから南向きに変更されたと伝えられます。

MAP いしのねやこふんぐん  
4 石の寝屋古墳群

明石海峡を一望する高台に築かれた古墳群で、海峡を舞台に活躍した海人の長が眠ると考えられています。出土した須恵器の年代から6世紀後半につくられたと見られ、日本書紀に記述がある海人の「男狭磯(おさし)」の古墳とする伝承も残っています。

MAP きふねじんじやいせき  
6 貴船神社遺跡

淡路島で最も古い弥生時代終り頃の製塩土器が発見された遺跡です。細長い石を磨き上げて両端をとがらせた棒状石製品も出土しており、漁具を自在に操った海人との関係の深さをうかがわせます。遺跡は播磨灘に面した海岸部に位置しており、海との強い関わりを示しています。

MAP えしま  
11 絵島

淡路島の北端に浮かぶ島で、国生み神話に登場する「おのころ島」伝承地の一つです。海人が活躍した明石海峡を背景に、長年の風波に洗われ描き出された造形美がおのころ島に見立てられたと考えられています。古くから景勝地として知られ、多くの和歌にも詠まれています。

MAP しもないぜんいせき  
14 下内膳遺跡

淡路島中央部に位置する弥生時代の拠点集落です。河内(現在の大坂府東部周辺)や和泉(現在の大坂府南部)、紀伊(現在の和歌山県と三重県南部)の土器が出土しており、他地域との交流が深かったと考えられています。大阪湾を介して交流する海の民の存在がうかがえます。

MAP にっこじどうたく  
21 日光寺銅鐸

播磨灘を臨む慶野村(現在の南あわじ市松帆慶野)で発見された銅鐸。弥生時代の新たな祀りに海の民が関わっていたことを想像させる出土品です。淡路島の銅鐸の特徴である舌(銅鐸の中に吊り下げて、揺らして音を鳴らすもの)を伴う希少な銅鐸でもあります。

MAP おきのしまこふんぐんとぼうじょうせきせいひん  
25 沖ノ島古墳群と棒状石製品

鳴門海峡を臨む小島全域に広がる古墳群です。自然石を積み上げた小規模な石室が多数築かれ、漁具が中心の副葬品が見つかったことから、海人の墓と考えられます。棒状石製品には沼島独特の縁泥片岩が使われ、海を生業の場とした海人の関わりを見るることができます。

MAP なるとかいきょうとうずしお  
28 鳴門海峡とうずしお

淡路と四国間に広がる幅約1.3kmの鳴門海峡、激しい潮流が特徴で、世界最大級の渦潮を生み出す海峡は、海人の巧みな航海術を必要としました。伊弉諾尊(いざなぎのみこと)と伊弉冉尊(いざなみのみこと)が天日槍(あめのひばこ)で下界をかき回して渦を巻く様子は、鳴門海峡の渦潮と重なります。

# 日本遺産 淡路島



# 『古事記』の冒頭を飾る 「国生みの島・淡路」

～古代国家を支えた海人の営み～

「食べる」「遊ぶ」に加え、「学ぶ」「感じる」の視点での新しい観光、「日本遺産・淡路島」。注目を集めつづける「国生みの島」は、歴史の風を感じる新しい観光拠点に。

## 平成28年度、淡路島が日本遺産に認定されました

文化遺産は、地域が歩んだ歴史の中で形づくられ、その地域の個性を象徴する地域の財産です。日本遺産は、地域に点在する様々な文化遺産を、地域の歴史的魅力や特色を活かしたストーリーで結び、地域が主体となって活用することによって、わが国の文化・伝統を国内外に戦略的に発信。地域の活性化・観光振興に結びつけることを目的とした事業として、文化庁は2020年までに100件ほどの「日本遺産」認定を目指しています。

## 海人という存在がもたらしたもの

わが国にとって重要な歴史書である『古事記』は、國の誕生を多くの神々の姿を借りて描いた神話の世界で始まります。そこには、日本で最初に誕した島が“淡路島”であると記されているのです。淡路島から発信する日本遺産ストーリーには、『古事記』の中で重要な位置を占める「国生み神話」と淡路島の関係、その背景にある海人と呼ばれた海の民との島の歴史的魅力、それが今の島にどう受け継がれていくかが描かれています。

### 豊かな農業と漁業

航海術に秀でていた海人。2000年前から変わらぬ漁法のタコ漁をはじめ、稻作技術など、最新の技術を大陸から持ち込んでいました。



### 日本を牽引する産業

大陸から持ち込んだ技術として、最先端の技術を使った鉄器づくり。銅鐸・銅劍は出雲とも深いつながりがあることが解明されています。



### 神様に感謝する心

平成27年に南あわじ市から松帆銅鐸が、淡路市からは舟木遺跡が発掘されました。それは、長い歴史の中で祭礼を大切に守ってきた証なのです。



国生みを果たした伊弉諾尊(いざなぎのみこと)を祀(まつ)る伊弉諾神宮、先山千光寺をはじめ、今でも地元に生き続ける淡路島人形淨瑠璃など、神に感謝し、伝統を重んじる心が育まれています。



古代

近代

## 日本遺産の歴史深さに触れられる4つのキーワード

### 神話の時代を今に伝える文化財たち

淡路島を旅している中で出会う神社仏閣や観光名所、名物グルメには、今は想像することしかできない神話の時代を、不思議と新しく感じさせてくれる奥深さがあります。海人が伝えた製鉄技術は、松帆銅鐸という大発見として、今、まさに注目を集め、御食国と呼ばれ朝廷に食材を運んでいた背景は、清らかな地下水、恵まれた気候、肥沃な大地、漁獲量の多い海など、観光客の舌を今もうならせている淡路ビーフやたまねぎブランドにもつながっている。島内の数多くの文化財からは、淡路島が数千年前と変わらぬ自然に恵まれているからこそ、今も昔も時代の先駆けとなっていることを、今の時代にも存分に感じさせてくれます。

#### くにうみしんわ 国生み神話

日本で最初に生まれた島として、古事記の冒頭を飾る淡路島。島内には、神話の神々や活躍の物語を、今に伝える文化財が数多くあります。

#### いざなぎのみことといざなみのみこと 伊弉諾尊と伊弉冉尊

古事記の中での日本の島々・多くの神々を生んだ2人の神は、日本民族の大祖先神。そして、我が国最初の夫婦としても多くの信仰を集めています。

#### みけづくに 御食国

御食国として朝廷に認められたのは、全国でも若狭・志摩・淡路島の3箇所のみ。古代から水・米・その他の食材を献じてきました。

#### まつはどうたく 松帆銅鐸

平成27年に南あわじ市で発掘された銅鐸は、2000年前の紐がそのままの形で見つかることなど、銅鐸の使われ方の考え方を変える可能性を持つ大発見に。





# 淡路島の神戸からの玄関口。 さあ、うれしい旅がはじまる



明石海峡大橋で本州とつながる淡路市。まずは日本遺産の主役をお祀りする伊弉諾神宮へ。古代の営みと、現代の豊かな恵みを行き来しながら、古事記の中で、日本で最初に誕生した島とされている淡路島の魅力を見つける旅の始まりです!

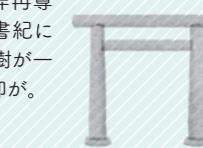


## 1 いざなぎじんぐう 伊弉諾神宮

国生み伝承の主役、伊弉諾尊(いざなぎのみこと)と伊弉冉尊(いざなみのみこと)をお祀りする格式高い神宮。日本書紀に幽宮(かくろのみや)と記された日本最古の神社。二株の樹が一株になった樹齢900年の夫婦大楠には夫婦円満のご信仰が。



3分



### Try お香体験



### 薰寿堂



淡路島伝統産業の一つのお香は、島内で国内生産量の7割を生産している。ここではお線香を生産している工場見学と、色と香りを自由に組み合わせるお香づくり体験(500円)が楽しめる。

好みの焼き加減で!



10分



### Gourmet



### 海鮮料理きとら 津名店



淡路島の牛肉・玉ねぎ・お米を使うことが条件の、ご当地グルメ淡路島牛丼。牛肉を自分で焼いてトッピングする珍しいスタイルと、わさび醤油で食べる新感覚の丼をぜひ堪能して。

## 3 淡路夢舞台



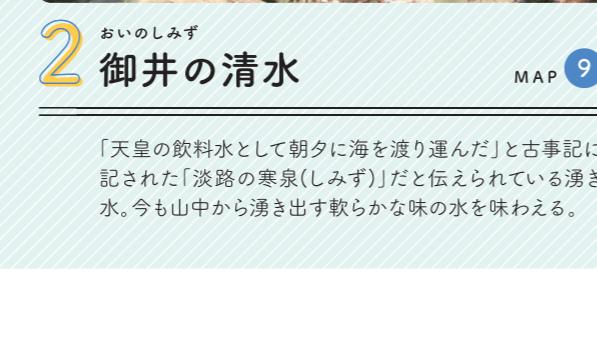
世界的な建築家 安藤忠雄が設計した、植物館・レストラン・ホテルなどが併設されたリゾート施設。山の斜面に沿って階段状に並んだ100個の花壇「百段苑」は、花盛りの季節にぜひ訪れたい。



## 2 おいのしみず 御井の清水



「天皇の飲料水として朝夕に海を渡り運んだ」と古事記に記された「淡路の寒泉(しみず)」だと伝えられている湧き水。今も山中から湧き出す軟らかな味の水を味わえる。



## 4 のじまスコーラ



閉校となった旧・野島小学校が、自然やアート、美味しい料理を堪能できる施設に。淡路島産の食材にこだわったカフェやレストラン、地元農家の朝採れ野菜が並ぶマルシェやベーカリーを楽しんで。



## 5 ごっさかいといせき 五斗長垣内遺跡



弥生時代後期に鉄器づくりが行われていたムラの遺跡。復元された住居と海が織りなす素晴らしい眺めを楽しんで。併設のまるごキッチンでは地元のおかあさんによる地元野菜満載のランチが味わえる。



## 6 島のごちそう。 古民家カフェと宿 淡



淡路島の豊かな自然に魅せられて移住した、元気なスタッフが運営するカフェと宿。築百年を越えた温かみのある古民家で、海と山の恵みを楽しんで。周辺の自然をのんびりと散策するのも楽しい。

## SPOT

### 淡路の注目 日本遺産スポット

日本遺産は裏表紙もチェック!→

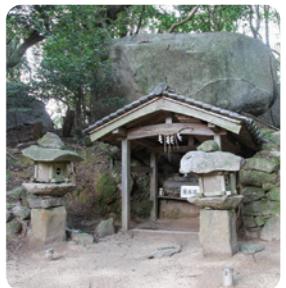
MAP ごっさかいといせきとしゅつどひん

#### 1 五斗長垣内遺跡と出土品



弥生時代後期の鉄器生産遺跡。古代国家成立に重要な役割を果たした鉄器文化を畿内に先駆けて取り入れたことを示す遺跡です。大規模な工房跡や多数の鉄器が出土。瀬戸内海を介して海の民が開拓した先端技術の伝播と物資の生産・流通の様子を物語っています。

#### 3 舟木遺跡



畿内に先駆けて鉄器文化を取り入れた弥生時代山間地集落の一つ。40haに及ぶ広大な面積や中国鏡片等の発見から、丘陵上の遺跡群の中心的役割を担っていたと考えられます。製塩土器やイイダコ壺なども出土しており、山間地集落と海の民の関係を知ることができます。

#### 8 伊弉諾神宮



国生みの伝承に登場する伊弉諾尊(いざなぎのみこと)と伊弉冉尊(いざなみのみこと)を祀る日本最古の宮です。境内には国生みに始まるすべての神功を遂げた伊弉諾尊の神宅の旧跡と伝えられ、神々しい趣で参拝者を迎えてくれます。2004年には、平安から鎌倉期のものと思われる伊弉冉尊を現したご神像9躯が新たに発見されました。

#### 9 御井の清水



日本書紀の仁徳紀の中に「朝夕に淡路島の寒泉(しみず)を酌んで大御水(おおみもい)として献上した」との記述が残る伝承の地です。天皇の御陵水として運ばれたことが分かる内容で、大阪湾を渡って名水を運ぶ海人の姿を想像するとともに、王権との関わりの深さをうかがわせます。



1

いざなぎじんぐう ぐうじ  
伊弉諾神宮 宮司 本名 孝至さん

## 海人が支えた国生みの伝承に、思いをはせる

古事記の中で淡路島は、淡道之穂之狭別島(あはぢのほのさわけのしま)という神として描かれています。「ほ」は稻穂、「さ」は米の魂、「わけ」は猛々しい力という意味を持ち、「お米のよく実る島」として読み解くこともできるのです。

淡路島は、当時、鉄器を加工するのにうってつけの土地でした。例えば、離島でありながら、真水を生み出す場所がある。熱源を生み出すための炭を作る技術や材木もあり、鋳型を作るための石は南あわじ市に安山岩の産地もあった。海人という航海術に長けた民族だったからこそ、製鉄の資源はアジアなどのわが国と異なる土地から調達することができた。その他の土地では実現できなかった先進的な技術とともに、太古の早い時期から稻

作を手がけていたという記録もあります。この恵まれた土地で、製鉄や稻作など、当時の最新鋭の高度な技術を持っていたからこそ、この土地の豪族たちは、大和王朝が発祥したときに大いに貢献をしたとも伝えられているのです。

古事記の冒頭に記されている「国生みの伝承」。その背景には、それを支えた海人という存在があればこそでした。海人は天(あま)にも通じる。つまり、「天の遠くの偉大なる人」として、敬われてきたのです。稻作の文化が伝わったことで、米という保存ができる素晴らしい食材を得ることができました。そして、神社に飾るしめ縄の藁(わら)、履物として使っていた草鞋(わらじ)の藁も同じように稻から生まれ、1つとして無駄にしない文化を

今に伝えるようになりました。神様が初めて生んだ土地で、共同生活で、みんなの田んぼで、みんなの稻として米を育てる。神様に豊作を祝う祭事で使う粉種(もみだね)は、来年に使う稻作の種になっていく。

この島には神代からの伝承が、今でも連綿と続いています。日本遺産に選ばれた淡路島が、今、考えるべきテーマは「伝承を島として、どう残し、どう伝えていくのか?」。経済効果中心にものごとを考えてしまう時代だからこそ、それを私たちが払拭し、貧しくても心が豊かな時代として、未来につなげいかなければいけません。日本遺産をキッカケにした広がりに、心から期待しています。



2

ごっさ  
五斗長まちづくり協議会 高田 一民さん

## 遺跡は地域の「たからもの」

この遺跡が発見されたのは2004年の台風被害復旧工事がきっかけでした。もともと農地だった場所から建物跡やさまざまな出土品が発見されました。その後、自分たちの祖先がここに暮らしていた証を残すために遺跡公園として残し、地域で活用することになりました。今では、地元のおかあさんたちが週末限定で地元野菜を使ったカフェを開いたり、小学生が古代米の田植えをしに来たり、地元の人が中心となり訪れた人に向けて、鉄器や勾玉作り体験を行ったりしています。

眼下に広がる海、そしてその海からの風を感じられる高台の風景はおそらく当時から変わっていないでしょう。この場所に暮らす1人として、ここを大事に保護するだけではなく、地域のたからものとして活かしていくたいと考えています。



現在進んでいる公園整備では、ここを芝生広場にする予定です。たくさん的人に訪れてもらって、この場所に愛着を持ってもらいたい。そして、2000年前にここに暮らし、鉄器を作っていた人たちの営みを感じてもらいたいと思っています。



3

ぱいくんどう  
株式会社梅薰堂 吉井 康人さん

## 伝統の香りを遺すために

現在、国内で生産されるお線香の7割が淡路島で作られています。ここ江井は1850年に7軒の廻船問屋が泉州堺の職人に学び線香作りを始めた場所で、当社は当時からずっと続いている会社でもあります。廻船業は天候の悪い冬場に船

を出すことが難しく、線香作りがまだない時代は、船乗りは杜氏の出稼ぎに出ていました。その間にも内職として女性が働くようにと、約170年前に「線香づくり」という新しい産業が作り出されたのです。

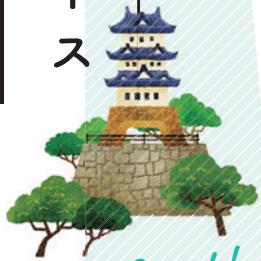
弊社は自動化を図った工場が主

体ですが、あえて伝統的な製法で生産する工場も残しています。その理由は、職人ならではの熟練した技術を未来に残していくこと。乾燥機を使えば1、2日で仕上がるものを、自然の風で1週間から10日かけて乾かします。

職人が手間をかけ、丁寧に質の高いものを作ることが、輸入品とは違った「淡路島の線香」のブランドを支えることにもなるのです。

江井の町を歩くと、どこからともなくお線香の香りがするでしょう？そんな風景をずっと残していくたいと思っています。





Start!

## 1 国史跡 洲本城跡・三熊山 MAP A PHOTO SPOT+

標高133mの三熊山山上にある洲本城跡。天守閣周辺の展望台からは、洲本市街から紀淡海峡までをパノラマで見渡せるビュースポット。かつて水軍を率いたお殿様の気分を味わえるかも。

5分



## 2 洲本市立淡路文化史料館 MAP B

淡路島の歴史と文化を一堂に集めた博物館で、日本遺産のストーリーを彩る構成文化財も多数展示されている。金属製のミニ銅鑼・銅鏡を自分で作ることができるワークショップが人気。



年に2回「城下町洲本レトロなまち歩き」も開催!

**Gourmet**

**中原水産 MAP E**

昔ながらの天日干し金揚げしらすを生産している、水産会社の直営店。しらすを豪快に載せた金揚げ丼(800円・5月下旬～)が絶品。こだわりの海産物をおみやげに出来るのも嬉しい。

※天候や漁況により提供できない場合があるため要問合せ。

歩いて楽しんで!

20分

車

**Shopping**

**まめはる MAP D**

豆大福をメインにした和菓子屋。自家製のあんこを使い、毎朝お店で手作りしている。7～9月の夏季は豆大福の販売を休み、夏向きの涼しい和菓子を販売。手間暇をかけやさしい味を楽しんで。

文化財

徒歩でぶらぶら

10分

車

**3 レトロなまち MAP C**

レトロな風情の空き家や元商店を活かした、温かみのある小さなお店が並ぶ通り。どこか懐かしい雰囲気の街並みを歩き、それぞれの店主との会話を楽しむながらショッピングをしてみて。

5分

車

**4 先山千光寺 MAP 18**

国生みの際に一番始めにできた山というから「先山」と名付けられた山中の寺。山頂の本堂前には狛犬ならぬ珍しい「狛猪」が。信仰の場としての静かな雰囲気や、自然の豊かさを満喫して。

35分

車

**5 サンセットライン MAP F**

淡路島西海岸を南北に走る県道31号は、サンセットラインとも呼ばれるドライブコース。慶野松原の夕日は「日本の夕陽百選」にも選ばれるほど。夕暮れ時の風景を目にしてください。

10分

車

温泉で1日の疲れをゆっくり癒して。

CULTURAL PROPERTY

施設内に「岡の谷1号墳」

**6 ウェルネスパーク五色 MAP G**

高田屋嘉兵衛顕彰館をはじめ、温泉・宿泊・アスレチック施設などが点在するレジャースポット。園内では陶芸・染色などの工房体験、農園体験など、年間を通して様々な体験が楽しめる。

車

## 洲本の注目 日本遺産スポット

日本遺産は裏表紙もチェック!→

### 16 旧城内遺跡



古墳時代の製塩遺跡で、製塩土器が出土しています。同じ場所から、塩づくりの場を埋葬の場として選んだ古墳も発見されました。古墳は自然石を組み合わせた小型の埋葬施設で、製塩に関わった海人の長が葬られたと考えられます。

### 17 コヤダニ古墳出土 三角縁神獣鏡



淡路島で唯一発見されている三角縁神獣鏡です。古墳時代の首長の権威を象徴する青銅製の鏡で、外縁の断面は三角形、背面上には神様と獣が刻まれています。海人が活躍した古墳時代に、王権とつながる有力な首長がこの地にいたことを示す貴重な出土品です。

### 18 先山千光寺



伊弉諾尊と伊弉冉尊の二柱の神が最初につくった山であることから、「先山」と名付けられたとされます。千光寺は先山の頂上につくられ、そのすぐ下方には天の岩戸に姿を隠した天照大神を祀る岩戸神社があります。豊かな自然の中にある国生み神話ゆかりの地です。

### 15 岡の谷1号墳



播磨灘を臨む高台に築かれた古墳であることから、対岸の播磨地域との海を介したつながりをうかがうことができます。石室内に納められた家型石棺には竜巖石が使用され、現在もその実物を洲本市のウェルネスパーク五色で見学することができます。



1

いつくしまじんじゃ ぐうじ  
厳島神社 宮司 浦上 雅史さん

## 古代からいまに繋がる営みを知って欲しい

いま、わたしたちが暮らしている淡路島は、古代の海人から脈々と連なる営みの中にはあります。海に囲まれたこの島は、古代よりずっと海を生業の場とする人が支えていて、古代の海人はもちろんのこと、近代の高田屋嘉兵衛のような海商、現代の漁業に携わる人も、海人と言えます。たまねぎを始めとする野菜や淡路牛などの農畜産物も、「御食国(みけつぐに)」と呼ばれた古代の豊かさから今に引き継がれています。

私は大学で考古学を学び、神主の資格も持っていたのですが、定年までずっと洲本市の教育委員会に勤め文化財の仕事をしていました。発掘調査の現場に出ることも多く、日本遺産構成文化財の「旧城内遺跡」の発掘作業にも関わっています。淡路文化史料館の立ち上げにも

携わったので、「宮司さんはいつも史料館にいらっしゃる」なんて言われたものでした。

長年文化財に関わってきましたが、実のところ考古学を身近に感じてもらうのはなかなか難しいことなんです。多くの遺跡は発掘調査のあと埋め戻してしまい、建物が建つことも多いので、そのほとんどは見られなくなります。ガラスケース越しに見る出土品から、その遺跡の姿や歴史を想像するしかない。ひとつのアイテムだけでは、その背景を理解し関心を持ちづらいのです。

日本遺産に認定された国生み神話と海人のストーリーは、いくつもの遺跡や出土品をつないで古代の海人の営みを感じていただくものです。島を訪れるひとりひとりが、このストーリーに沿って島内を巡ること

で、物語の背景にある歴史や営みを知り、淡路島全体のつながりを実感してくださるといいな、と思っています。

淡路島には、古代から現代までずっと繋がる歴史と営みがある。このことに誇りを持って、子どもたちにも日本遺産のストーリーを語り継いでほしいと思っています。最近、地元の人を対象に日本遺産についての講演をしたり、地域の小学校で地名の由来についての授業をしています。自分が暮らす地域の歴史を知れば、地域がもっと好きになる。のために、楽しみながら学び、歴史に親しんでもらう仕掛けをこれからも考えていきたいです。



2

城下町洲本再生委員会 野口 純子さん

## レトロで新しいこみちによるこそ！

空き家や空店舗の鍵を開け、モノづくり作家さんにお店を開いてもらう「城下町洲本レトロな街歩き」というイベントを始めて5年経ちます。15,000人を越えるお客様のうち、3割は島外からいらした方。この5年で、常設のお店が19店増えました。

きっかけは、昭和の風情が残るこの通りを「レトロで素敵」と、島外の人が評してくれたこと。高齢化が進んで寂しくなってしまった街の風景も、捉え方ひとつでまったく逆に見えることがとても新鮮でした。それまでの地域の現実としては、老人ばかり、独居ばかり。街に新しいお店と住民が増えて、活気が戻って来ています。

2016年4月には、この通りを商店街にしました。この時代に新しい商店街が出来るなんてびっくりでしょう？「商店街」として街のことを考えてもらって、次の世代にも活動を引き

継いでもらいたいと思っています。この小さな通りを気にいってお店を開いた店主たちは気さくな人ばかり。買い物ついでに、ぜひこの街のことを訊ねてみてくださいね。



3

株式会社 脱サラファクトリー 末澤 輝之さん

## 国生みの島の海の恵みを届けたい

今の日本には、海の成分をしっかり含んだ美味しい塩がまだ少ないのではないか。学生時代から外食産業で働いていて、ある時そう思ってしまったんです。それから様々な塩の製法を学び、全国の海沿いを巡ってたどり着いたのが、ここ洲本市の五色浜でした。

2本の川に挟まれたこの浜で塩づくりを始めてから5年が経ちます。海水は水蒸気になって山に雨を降らせ、雨水は川になってまた海に戻ってくる。山と海の恵みが溶け込んだ海水が、自凝雪塩唯一の原材料です。40時間鉄釜に薪をくべて火を炊く昔ながらのやり方で、海水を塩の結晶へと変えていきます。季節や炊き方で後味が変わるので、どう納得できるものに仕上げていくかが腕の見せ所ですね。

古代の淡路島で塩づくりが行われていたことや、海人と呼ばれる人たちがこの海を渡って塩を運んでいたことは、この仕事を始めるまで知りませんでした。それでも、そのような営みが日本遺産に認定されたと聞くと、今も同じ海から塩を作っている身として誇らしい気分になりますね。



# 南あわじ周遊コース

## 「日本の原点」を知り、淡路島の豊かな恵みを味わおう

日本の歴史を塗り替える可能性を持つ松帆銅鐸や、国生み神話に登場する「おのころ島」であると伝えられるスポットをめぐりながら、淡路ビーフに水揚げされたばかりの魚介類、鮮度抜群の野菜など淡路島の豊かな食をたっぷり楽しんで。



### 1 滝川記念美術館 玉青館 MAP A

淡路島で育った日本南画界の大家である直原玉青(じきはらぎょくせい)の絵画を収蔵する、日本初の現代南画美術館。南あわじ市で出土した松帆銅鐸のパネルや説明資料が展示されている。

12分  
車



### 2 おのころじまんじゅ 自凝島神社 MAP 30

国生み神話に記された「おのころ島」伝承地の一つ。現在は陸地だが、縄文時代には海の中に浮ぶ小島であったと考えられている。朱塗りの大鳥居は高さ21.7mあり、南あわじのシンボル的存在。

10分  
車

### 3 淡路島牧場 MAP B

乳しぶりとバターブリキ体験(1,390円)や、子牛に乳飲みまし体験(460円)をはじめ、自然豊かな牧場風景や楽しめる体験がたくさん。手ぶらでOKな淡路牛バーベキュー(1,670円～)も味わえる。



徒歩で  
ぶらぶら

### Gourmet 福良マルシェ MAP C



### 福良マルシェ

MAP C

地元農家から直接仕入れる新鮮な野菜と、淡路島産のものだけが並ぶこだわりマルシェ。新鮮な魚のフレイとスライスオニオンをピザ生地で挟んだ福良フィッシュバーガー(600円)は絶品。



20分  
車

しぶりたては新鮮!

### 5 料理旅館 木村屋 MAP E

沼島近海の鱧(はも)は、京都・大阪の料亭でも「鱧なら沼島」と言われるほど、柔らかく甘みのある絶品。鱧料理のフルコースを楽しめるほか、冬場は鯛や淡路島3年とらふぐなど、豊かな海の恵みを楽しんで。



地元の食材を堪能!

3分

### 4 淡路人形座 MAP 29

500年以上の歴史ある、淡路島の風土から生まれ育まれた淡路人形芝居の公演が行われる。あらすじと解説もあり、気軽に伝統芸能を楽しむことができる。



### Gourmet 吉甚 MAP D



### 吉甚

MAP D

古民家を改装した観光案内所。「沼島おののころクルーズ」や「観光ボランティアガイドぬばこの会」の予約はここで。喫茶コーナーでゆっくり一服しながら、沼島の見どころ情報を手に入れて。

## SPOT

### 南あわじの注目 日本遺産スポット

日本遺産は裏表紙もチェック!→

MAP まつどうたく

### 23 松帆銅鐸



2015年4月、南あわじ市松帆地区で7点発見された銅鐸。菱環錘(りょうかんちゅう)式1点をはじめ、他6点も紀元前製作の古式の銅鐸です。3組6点は入れ子状態で出土。すべての銅鐸に舌が伴うなど他に例のない埋納例と、海岸地帯での埋納から海の民が携わったと想定されます。

MAP おのころじまんじゅとくにうみしんわでんしょううち

### 30 自凝島神社と国生み神話伝承地

朱塗りの大鳥居が目印の自凝島神社は、国生み神話に登場する「おのころ島」ゆかりの神社。古代の御原入江の中にあり、古くからおののころ島と呼ばれて崇敬を集めました。周辺には、葦原國(あしはらこく)、天浮橋(あめのうきはし)などの神話伝承地が残されています。



MAP あわじにんぎょうじょうるり

### 29 淡路人形浄瑠璃

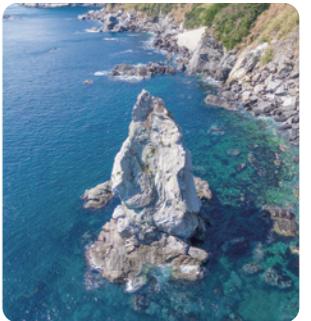


淡路島を代表する伝統芸能で、国生み神話ゆかりの「えびす舞」を起源とします。三人遣いの人形、義太夫、三味線で演じる古典的人形劇で、国指定の重要無形民俗文化財。最盛期の江戸時代には島内に40以上の人形座がありましたが、現在は南あわじ市の淡路人形座でのみ上演されています。

MAP ぬしま

### 31 沼島

国生み神話に登場する「おののころ島」伝承地の一つ。淡路島の太平洋側に浮かぶ小島で、上空から見ると勾玉の形をしています。古墳や製塩遺跡が残るほか、立神岩をはじめ巨大な奇岩が島を取り囲んでいるのも特徴。沼島の「沼」は国生み神話の「沼矛」に由来するという説もあります。





1

## 南あわじ市 埋蔵文化財調査事務所 定松 佳重さん

## 銅鐸を通して、淡路島の歴史的な価値を伝えたい

2015年4月に南あわじ市の松帆周辺から採取された砂の中から、銅鐸7点が発見されました。連絡を受けた時、この銅鐸が、まさか教科書の記述を変えてしまうかもしれないなんて、思ってもみなかつたのですが、実はものすごい大発見だったのです。全国で初めて「舌(ぜつ)」と呼ばれる銅鐸の中につりさげて音を鳴らすための棒が、内側の砂に埋まつたまま、しかも質のいい状態で出てきたんですね。

今まで銅鐸はどうやって音を鳴らしてきたかについて、いろいろな説があったのです。でも、今回の「舌」には、当時使っていた状態や2000年前の紐の痕跡もあり、収納方法も人が関わった形跡もある。そして、

吊って使われていたと考えられる状態のものが初めて出土したのです。確実に言えることは、今までの研究から予想されてきたものが、松帆銅鐸によって初めて痕跡として確認できたということ。

神話が書かれた「古事記」は1,300年前に作られたのですが、当時の政権にとって重要な地域には名譽ある話を与えて、「あなたたちを大切に思っていますよ」とその地域の豪族たちにアピールしたのではないかと私は考えています。淡路島には、豊かな食べ物があり、海人が持ち込む新しい技術があり、製鉄、製塩など、無くてはならない島だと思われていた。だから淡路島は最初にできた島なのです。



2

## 福良マルシェ店長 黒田 尚さん

## 淡路の美味しいものをあなたに

野菜は生きものなので、うちの店も年中無休。野菜は開店前に集荷に行って、ほんの数時間前まで畠の土の中にあったものを毎日お店に並べています。海産物は仲買人から直

接仕入れているものですし、野菜だけでなく店内にあるものすべてが、淡路島で作られたものですよ。旅行に行って買ったおみやげが、どこか別の場所で作られていたほど

残念なことはないでしょう?だからこそ、淡路島産であるということにはとことんこだわっています。

淡路島は食料自給率が100%を越えていて、肉も魚も米も野菜もいいものが穫れる。特に高級なものを選ばなくとも、普通に美味しいものが食べられる「平均点が高い」暮らしができます。それが住民の誇りにもなっているし、訪れる方に「優しい人が多いね」と言ってもらえる人柄にも現われているように思います。かつて「御食国(みけつくに)」と呼ばれていた頃から、変わらない食の豊かさを、島内を巡ってぜひ楽しんでもらいたいです。



3

## 南あわじ市沼島地区地域おこし協力隊 川勝 恵さん

## 日本の原点の島によるこそ

初めて沼島に来たのは3年前。この島の奥深さに惹かれて幾度となく通い、2016年の4月から地域おこし協力隊として沼島に移住しました。もうひとりの隊員と一緒に島民とつくる沼島総合観光案内所「吉甚(よしじん)」を運営しながら、島の外周

を漁師さんの船で巡る「沼島おのころクルーズ」、島内散策ボランティアガイド「沼島ぬぼこの会」の取り次ぎなどもしています。

沼島には、古事記に書かれた国产みの神話がごく当たり前のことで根付いています。春と秋の大祭

のほかにも、海や山の無事や恵みを祈願する旧暦に合わせた祭礼や、各地区で行う小さな祭りも行われ、昔ながらの生活を大切にしています。上立神岩(かみたてがみいわ)に昇る朝日の素晴らしさや、使われなくなった段々畑の斜面や家の囲いに積まれた石垣の美しさなど、島の人にとっては当たり前でも、島の外から来た私には感動する風景がここには数多くありますね。

「日本の原点」とも言われるこの小さな島は、日常の暮らしから少し距離を置いて、自然の中で気持ちをリセットできる場所です。ゆっくり島を歩き、海を眺めて、島内を自由に散策してみてください。

